

# 伊達広行教授追悼 北大保健チャリティ講演会～白土博樹教授を招いて～

医用生理工学分野 教授 神島 保 / Tamotsu KAMISHIMA

特集

4

2

2022年の夏、長きに渡り北大保健の礎を築かれた伊達広行研究院長が、現職のまま急逝されました。伊達先生は将来の医療従事者の健やかな成長と保健科学研究の発展を誰よりも大切にしておられました。その精神を受け継ぐべく、伊達先生のお名前を冠した基金を創設し、チャリティ講演会を開催する運びとなりました。講師は長きに渡り伊達広行先生と共同研究を進めてこられた白土博樹先生（北海道大学大学院医学研究院 教授）に依頼、2024年2月8日(木)にオンラインで開催されました。

18時にライブ配信を開始、矢野理香研究院長からご挨拶と本企画開催に関する経緯のご説明があり、司会（神島）が白土先生のご略歴をご紹介、講演が始まりました。冒頭、「伊達先生が、突然お亡くなりになり、信じられない気持ちでした。今回、追悼講演のお話を頂き、私は伊達先生のほんの一部しか存じ上げず、自分が相応しいかどうか不安でしたが、伊達先生への感謝を込めて、お引き受けしました。私の研究内容の紹介をさせて頂けるとのことですので、この機会に、自分の研究に関して、伊達先生にお会いする前と、お会いしてからのことを、振り返ってみました。」とご挨拶をいただきました。

2003年に伊達先生が白土先生のところに教授就任の挨拶に来られたのが初対面で、伊達先生は、将来展望として、多部局横断研究や動体追跡陽子線治療の開発を熱く語っていらしたとのこと。白土先生は、相槌を打ちなが

らも、夢物語と聞いていらしたそうです。ところが、現在までに大型研究費を次々に獲得され、夢がすべて実現したのです。

講演の終盤で、白土先生は、伊達先生が何かを訥々と語る時に、純粹な「情熱」や「正義感」など「志」的なものが言葉に漂い、非常に印象に残ったそうです。伊達先生の発した「言葉」が歴史を動かし、伊達先生の「大志」に基づく言葉（人としてあるべき、あらゆることを成し遂げるために、大志を抱け！）は、我々がどう進むべきかを示し、周りの我々は、無意識のうちに、その道に沿って行動していたと感じておられるとのことでした。最後に、寶金清博総長からの追悼コメントをご紹介いただいた上で、白土先生から伊達先生への感謝の言葉で講演を終了されました。

講演終了後、参加者との質疑応答の中で、異分野横断の困難さに関し言及され、成功率は極めて低く、単なるshake handsの連携ではなく、重要なテーマ設定をもとにした、真の意味での異分野横断研究の必要性を説いておられました。若手研究者のみならず、全ての研究者の心を打つ内容のコメントであり、今後の白土先生と保健科学研究院の研究者との交流への発展も大いに期待される講演会となりました。

ご参加いただいた皆様、同窓会並びに本講演会の開催にあたりご協力いただいた関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

